

ALPT通信

令和2年度第6号
静岡県総合教育センター
アクティブ・ラーニングプロジェクトチーム



第2号に続き... 子供たちが対話的に学ぶためにどのような工夫ができるか？②

コロナ禍で、対話は禁止！？そんなことはありません。

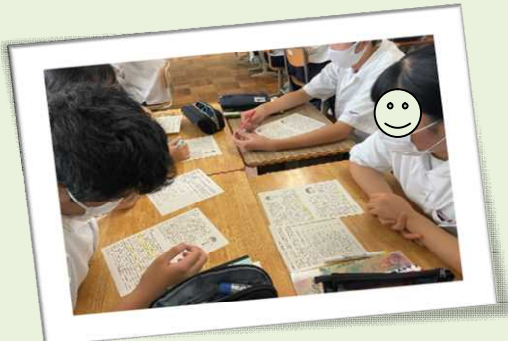
第2号では、「深い学び」を「対話」との関係も含めて整理した上で、さらに「対話的な学び」の工夫についてまとめました。**他者との対話**において重要なのは、**他者との関わりを通して思考を深め、自分の考えをよりよくする、新しい気付きや発見が相互に生まれる**(=「建設的相互作用」が起こる)ことです。今回は、**他者との対話**を行う場合のちょっとした工夫例をまとめました。



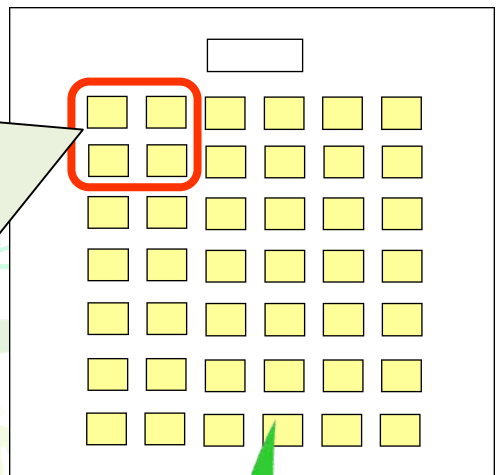
対面による対話の工夫例

グループでの対話を行う際の原則を確認！

- ★授業の合間の休み時間には、換気と手洗いを徹底します。
- ★必ずマスクを着用します。



- ★児童生徒の間隔を、学級内で最大限の間隔をとるように座席配置を取ります。



発想の転換

そうは言っても、どうしても「密」は避けられない！

- ★授業デザインを見直して、「**学習活動の重点化**」を図ることが大切です(授業と家庭学習のハイブリッドについては第7号で紹介)。リスクを避けるために**対話活動が必要な場面を焦点化し、時間を限定**することも考えられます。
- ★そのためには、単元の見通しをもった目標(付けたい力)の明確化と、目標に基づいた課題設定が必要です。その課題を解決するために、**他者との対話活動をどこに組むのか?**をデザインします。

普通教室以外を有効に利用して間隔を広くとる

- ★図書室
- ★多目的スペース
- ★会議室 等

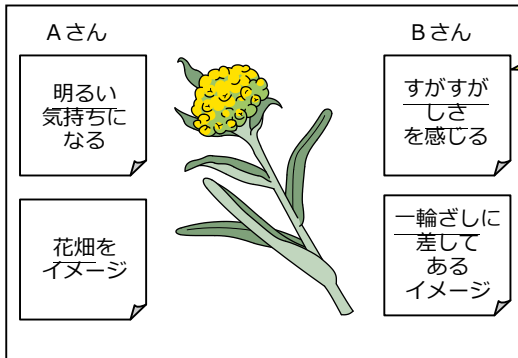
「話す」「聞く」活動以外の対話の工夫例

対面による「話す」「聞く」活動が難しい場合は、「書く」と「読む」活動で補います。

付箋の活用やワークシート・ノートの工夫

<例>

既存の作品を鑑賞し、気付いたことなどを付箋に書き、ワークシートなどに付箋を貼りだす。互いの考えを比較し、違いに気付いたり、その理由を考えたりすることで、自分の考えを広げたり深めたりする。ワークシートやノートに、「自分の考え」を書く欄と、「他者の考え」を書く欄を上下・左右などで設けるなどの工夫も考えられる。また、付箋の他にも、ワークシートの一部を短冊状に切り取れるようにしたものを用意し、それらを活用しながら相互評価活動を行う。子供が制作した作品や意見が書かれたホワイトボードなどを見せ合って相互評価を行い、付箋や相互評価表を他者に渡す。他者からの感想や評価をふまえ、自分の作品や意見を改善していく。



ワークシート例 (小学校図画工作)

鑑賞する作品を中心に、鑑賞者や鑑賞する視点によって、付箋を貼り出す位置を変えるなど、レイアウトを工夫し、互いの意見を比較して考えやすくしている。

「自分の考えを確かめるための実験」チェック表 ※「○」「△」でチェックしよう

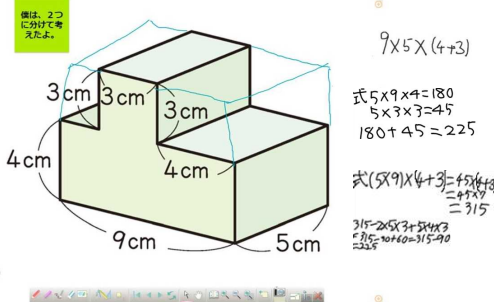
チェック内容	
「自分の考え」とつながりのある実験になっているか	○
「変える条件」「変えない条件」が明確になっているか	
実験結果の見通しは適切か	△
理科室内の器具を使って安全かつ時間内に行えるものか	○

相互評価表例 (中学校理科)

ICT機器の活用

<例>

Google classroom 等を活用し、資料をタブレット端末で共有する。共有した資料（画面）に自分の考えを書きこみ、その内容を共有し、自分の考えを広げたり深めたりする。



Google Jamboard 画面 (小学校算数)

Google Jamboard を使い、作成した資料を、各タブレット端末に送付する。子供は、資料を見て個々の考え（補助線や式）を画面に書きこむ。複数の子供で書きこむことができ、書きこんだ内容は、画面で共有することができる。付箋を貼ることもできる。

【参考】

文部科学省は、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況に鑑み、新型コロナウイルス感染対策専門家会議において提言された「新しい生活様式」を踏まえ、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～学校の新しい生活様式～」を公開・更新しました（令和2年6月16日）。このマニュアルでは、作成時点での感染状況を踏まえて、地域ごとの行動基準が3段階のレベルで示されています。「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準

地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い教科活動	部活動 (自由意思の活動)
レベル3	できるだけ2m程度 (最低1m)	行わない	個人や少人数でのリスクの低い活動で短時間での活動に限定
レベル2	できるだけ2m程度 (最低1m)	リスクの低い活動から徐々に実施 ²	リスクの低い活動から徐々に実施 ² し、教師等が活動状況の確認を徹底
レベル1	1mを目安に学級内で最大限の間隔を取ること	適切な感染対策を行った上で実施	十分な感染対策を行った上で実施